

■ 制度・概況

● 山鹿市都市計画マスタープラン

○ 位置づけ

山鹿市の最上位計画である「第2次山鹿市総合計画」や熊本県が定める「山鹿都市計画区域マスタープラン」に即しつつ、地域に密着した見地からまちづくりの将来像を定め、その実現に向けた土地利用や都市施設などの方針を定める計画です。

○ 役割

- ① 都市計画の総合的な指針 ② まちづくりの指針 ③ 連携と協働の指針

○ 改定の背景

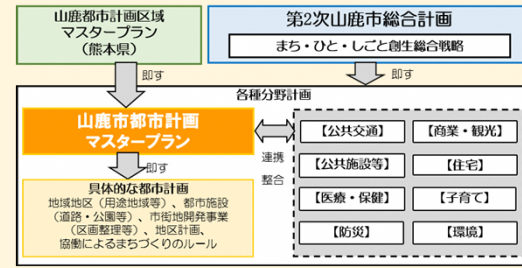
- ① 一体のまちづくり ② 上位・関連計画 ③ 社会経済情勢

○ 計画の対象

対象区域：【山鹿市全域】 目標年次：【令和25（2043）年】

○ 計画の構成

計画は、「現況と課題」の分析を踏まえ、「全体構想」と「地域別構想」の2段階で構成します。



■ 全体構想

● まちづくりの目標

○ まちづくりの視点

① 一体のまちづくり

第1期計画では、旧市町の都市計画に対する熟度の違いや市町単位の意識に配慮し、地域特性を生かしつつ、一体のまちづくりの第一歩を踏み出すことを目指し、まちづくりを進めてきました。そうした中で、令和5年に計画の目標年次を迎え、時間の経過やこれまでのまちづくりの実績などから、市民意識も、旧市町への愛着を残しつつ、オール山鹿のまちづくりへと醸成されてきました。こうしたことから、第2期計画では、オール山鹿の観点から地域資源の活用や役割分担、連携強化など、**一体のまちづくり**を発展させていくことが重要です。

② 上位・関連計画

山鹿市の最上位計画である第2次山鹿市総合計画や熊本県が定める山鹿都市計画区域マスタープランとの整合のため、**山鹿らしさ**の創出、**産業振興**基盤の整備、**安全・安心**なまちづくり、**協働**のまちづくりなどを進めていくことが重要です。

③ 社会経済情勢

人口減少下において選ばれるまちを目指し、コンパクト+ネットワークなどの観点から、個性を生かした**持続可能な都市経営**を実現することが重要です。

○ まちづくりの基本理念

人と自然・産業・歴史文化をつなぐ都市(まち) やまが
～多様な暮らしと交流のまちづくり～

○ まちづくりの基本方針

① 地域や人々の役割分担と連携強化によるオール山鹿のまちづくり

- ・オール山鹿の視点から各拠点に求められる役割を見つめ直し、近隣市町との広域連携を推進しつつ、必要とされる土地利用の誘導や都市基盤施設の整備を進め、より効果的で利便性の高いコンパクト+ネットワークのまちづくりを推進します。
- ・山鹿市のまちづくりにおいては、情報共有や仕組みづくり等の充実により、行政主導型ではなく、参加型のまちづくりを推進します。

② 安全・安心・快適で、多様な暮らしを実現するまちづくり

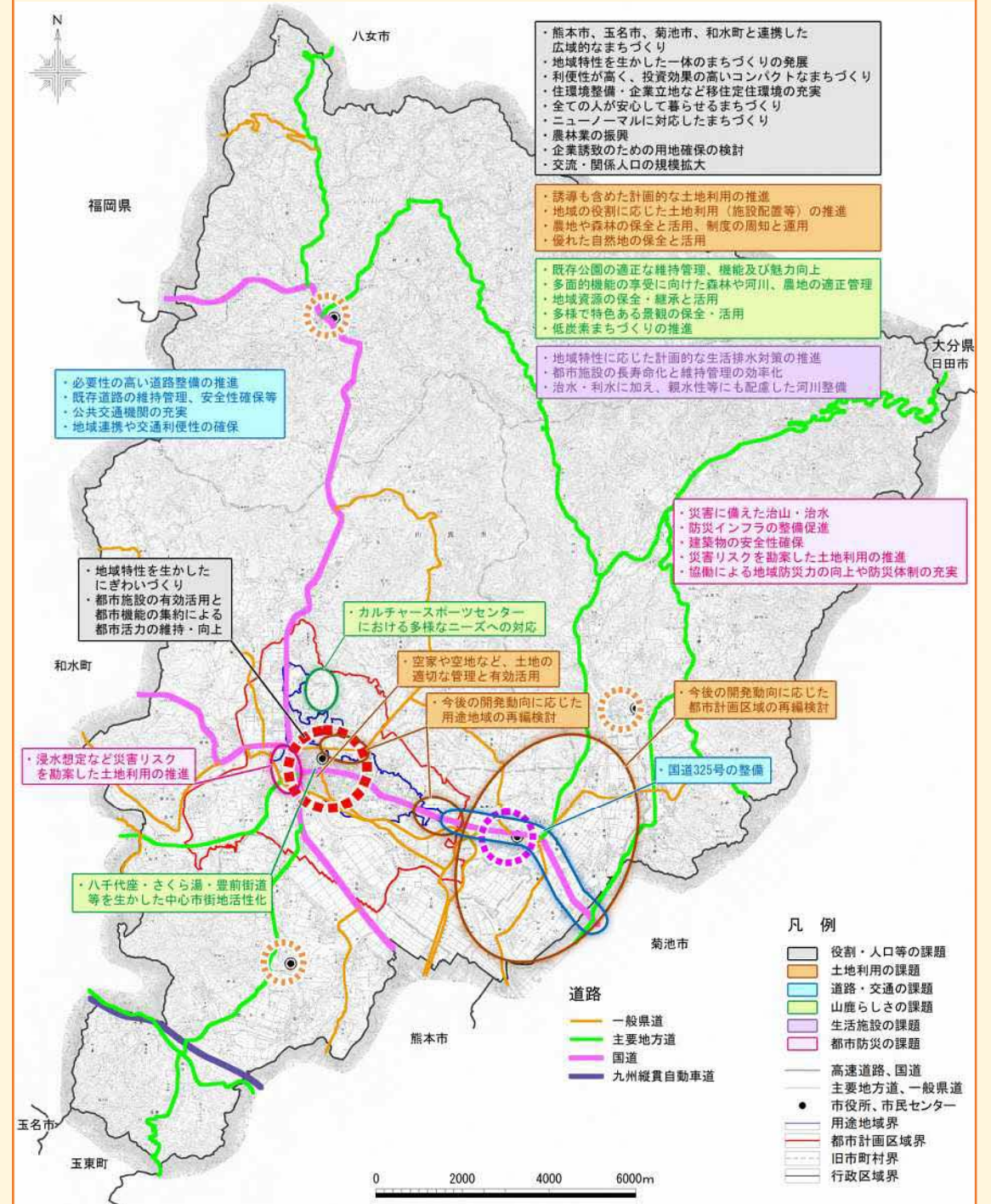
- ・治山・治水事業や避難地・避難路等の整備など防災対策を第一としながら、規制や誘導など土地利用制度の適正運用、情報提供や地域防災力の向上など減災対策に取り組み、安全・安心で災害に強いまちづくりを推進します。
- ・効果的で利便性の高いコンパクト+ネットワークのまちづくりを前提としながら、良好な住環境の確保を目的とした計画的な土地利用の推進、住み心地を快適にする都市基盤施設の整備や適正な維持管理、高度情報化社会を実現する情報基盤の整備等により、定住人口の維持・確保を図ります。
- ・豊かな自然環境や歴史文化などの地域資源を生かしつつ、ニーズに対する柔軟な施策を実施することで多様な暮らしの選択肢を提供し、コロナ禍で生まれたニューノーマルな時代の定住人口の維持・確保を図ります。

③ 地域資源を生かし、魅力や活用を高め、多様な交流を実現するまちづくり

- ・観光資源の魅力向上や新たな観光資源の発掘、観光資源の連携、都市・地域間のアクセス利便性の向上、人材育成や地域づくり、情報発信の充実などにより山鹿市の魅力を高め、県北の地の利を生かした交流・関係人口の増加に努めます。
- ・本市の基幹産業である農業基盤の保全・整備を基本としながら、安定した就労機会の確保となる企業誘致やそのための基盤整備などに尽力します。また、コンパクト+ネットワークのまちづくりにより投資効果を高め、中心市街地等の活性化を図り、都市の活力・賑わいの向上を推進します。
- ・治山治水対策などを進めながら、これらの自然環境を未来へ継承する貴重な財産として保全するとともに、グリーンインフラとして積極的に活用し、緑が有する多面的機能の享受を図ります。

● まちづくりの課題

○ まちづくりの課題図



山鹿灯籠まつり



八千代座

■全体構想

●将来都市構造

○基本的な考え方

各拠点が求められる機能を発揮しつつ、道路や公共交通により各拠点や地域を繋ぎ、都市間交流に展開していく「コンパクト+ネットワーク」の都市構造を目指します。

○将来都市構造の要素

①拠点等

▼都市拠点

都市機能が集積する、山鹿市の商業・業務機能の中心地

▼地域拠点

国道325号を軸として中心市街地と連担し、その沿道には都市機能が集積する、地域の中心地

▼生活拠点

一定の生活利便施設が集積する、生活の中心地

▼交流核

山鹿市の魅力を代表する観光資源等を有する区域

▼産業核

山鹿市の産業を先導する区域

②交流軸

▼広域交流軸

日本各地の都市を繋ぎ、広域的な交流を促す役割を担う軸

▼地域交流軸

市内の各拠点を繋ぎ、暮らしの利便性を高め、地域間の交流を促す役割を担う軸

▼生活連携

各拠点と暮らしの場を繋ぐ、日常生活に欠かせない道路

③ゾーン

▼市街地ゾーン

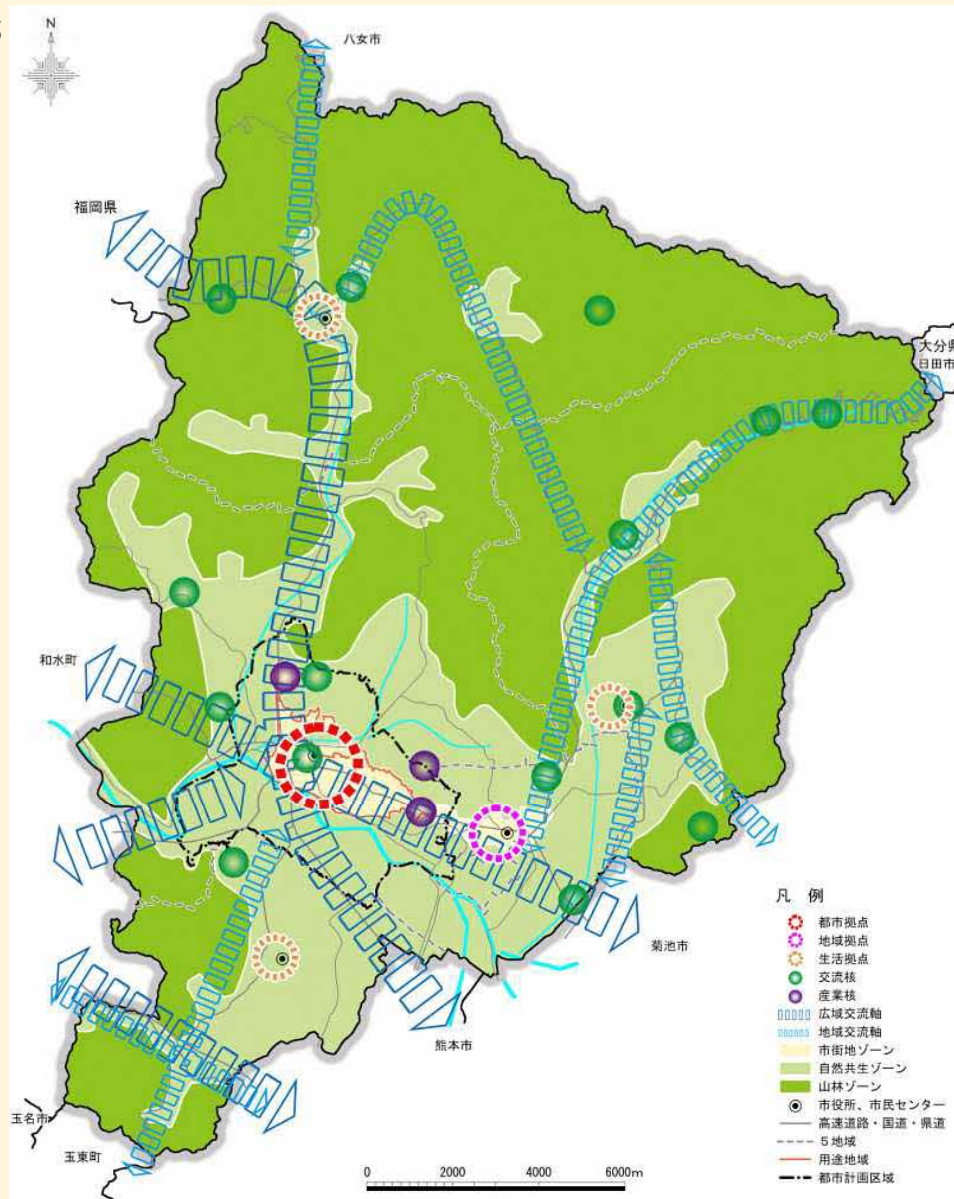
都市的土地利用が進み、人口密度の高い区域

▼自然共生ゾーン

暮らしと営みが一体となり自然の恵みを楽しんでいる区域

▼山林ゾーン

良好な自然環境が広がる山間部の区域



●土地利用

○基本方針

▼土地利用のゾーニング

市街地ゾーン、自然共生ゾーン、山林ゾーンの3つのゾーニングを原則とした土地利用を進めます。

▼持続可能な都市の骨格づくり

立地適正化計画制度の活用など、都市機能や人口の誘導による高密度で投資効果の高いまちづくりを進め、持続可能な都市経営を実現します。

▼計画的な土地利用

現状の土地利用を基本としつつ、開発動向などに応じて、都市計画区域の再編や用途地域の見直し、その他地域地区の指定・見直しなどを進め、機能的な都市活動の推進や良好な居住環境の形成、豊かな自然環境の保全などを図ります。

▼きめ細かな土地利用のルールづくり

地域の魅力向上や良質な居住環境の創出などを目指して、市民や事業者などと協働した地区計画や協定などのルール作りを促進します。

●山鹿らしさ

○基本方針

▼山鹿らしさによる郷土愛の醸成と交流等の促進

豊かな自然環境や歴史・文化などの資源を維持・創出・増進（守り・創り・育て）し、基盤整備等によりこれらを連携（繋ぎ）させ、人や情報によりこれらを展開（生かす）することで、相乗効果による山鹿らしさ（魅力）の増幅を図り、郷土愛の醸成と交流等の促進につなげます。

▼公園・広場等の機能充実と適正管理

地域特性や市民ニーズ、求められる役割などを考慮した公園・広場等の適正配置と機能充実を図るとともに、市民との協働による維持管理、民間活力の導入についても検討します。

▼山鹿景観の創出

山鹿市景観計画に基づき、豊かな自然環境や魅力あふれる歴史・文化、活力ある暮らし・産業など、それぞれの特性を生かし、これらがほどよく融和した山鹿らしい景観の形成を目指します。

▼循環型社会の構築

「コンパクト+ネットワーク」のまちづくりを進める中で、資源・エネルギーの有効活用や環境負荷の軽減などにより、循環型社会の構築を目指します。

●道路・交通

○基本方針

▼一体性を高める交通ネットワーク

一体の都市としての骨格形成と交通要衝としての発展を目指し、連携・交流が充実した交通ネットワークを構築します。

▼都市活動を支える広域連携の強化

都市間の大量輸送を担う公共交通が弱い本市では、暮らしや就業など日常生活で密接に関係する熊本市や菊池市など周辺都市、産業活動や観光などでの関係構築が期待される福岡県や大分県など隣接県との連携強化を目指し、広域幹線道路の機能強化を推進します。

▼安全・安心な交通環境

緊急輸送道路の機能強化や避難路の確保、狭あい道路の整備など、地域防災力を高める強靱な道づくりを推進します。また、暮らしの中で子どもから高齢者、障がい者など全ての人々が、歩行や自転車、車椅子など全ての手段で、安心してスムーズに移動できる道づくりを推進します。

▼持続可能な地域公共交通の構築

交通事業者、行政、市民それぞれが地域公共交通の必要性を認識し、みんなで、安全・安心に利用できる持続可能な地域公共交通を構築します。

●生活環境

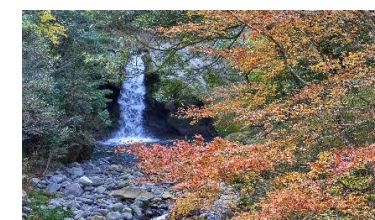
○基本方針

下水道や上水道、河川、公共施設など市民の生活を支える生活環境施設について、計画的な整備や維持管理を図るとともに、多様化するニーズなど時代背景を踏まえた機能拡充を図り、安定したサービスの提供と利用満足度の向上を目指します。

●安全・安心

○基本方針

防災、防犯・交通安全、福祉・健康について、ハード・ソフト両面から効果的な対策を実施することにより、安全・安心に住み続けることができるまちづくりを進めていきます。



岳間溪谷

さくら湯



■ 地域別構想

● 地域別構想について

○ 地域別構想とは

地域別構想とは、各地域の連動による相乗効果で山鹿ブランドを高めるため、それぞれの特性や役割を明らかにした上で、全体構想との整合を図りつつ、地域で取り組むべき基本的方針を示すものです。

○ 地域区分

地域区分は、地形的・地理的条件や歴史的背景、日常生活の圏域などを総合的に勘案し、まとまりのある空間として、旧市町界を基本とした山鹿・鹿北・菊鹿・鹿本・鹿央の5地域を設定します。



● 山鹿地域のまちづくり

▼ テーマ

魅力と利便性を高め、人々を惹きつける地域 “やまが”

▼ 目標

① おもてなしの魅力が溢れる地域づくり

多くの観光・交流施設等を生かすとともに、景観づくりや施設整備、人材育成などを図り、おもてなしの空間として人々を惹きつける地域づくりを進めます。

② 暮らしの利便性が高い地域づくり

計画的な土地利用や居住環境の整備、アクセスの充実などにより、まちなかの人口規模・密度の確保や都市機能の維持・向上を図り、山鹿市の中心地として人々を惹きつける地域づくりを進めます。

▼ 方針図



● 鹿北地域のまちづくり

▼ テーマ

豊かな自然環境に抱かれ、穏やかな心を育む地域 “かほく”

▼ 目標

① 自然の魅力を発信する地域づくり

岳間渓谷キャンプ場や道の駅かほく（小栗郷）などを通じて、自然とふれあう場づくりを進め、市内外の人々の穏やかな心を育む地域づくりを進めます。

② 豊かな自然環境と生活が共生する地域づくり

地域の8割を占める山林や岩野川など豊かな自然環境を保全するとともに、これらの恵みを楽しむ、生活の利便性確保、連携強化及び居住環境の整備などを図り、穏やかな心を育む地域づくりを進めます。

▼ 方針図



■地域別構想

●菊鹿地域のまちづくり

▼テーマ

歴史・文化と自然を育み、交流が芽生える地域“きくか”

▼目標

①活発な交流を生み出す地域づくり

鞠智城跡や矢谷溪谷など豊かな歴史文化や自然環境の保全・活用により、地域活力や観光交流を増進し、市内外の人々の交流の芽生えとなる地域づくりを進めます。

②豊かな自然環境と生活が共生する地域づくり

地域の7割を占める山林や上内田川・木野川、矢谷溪谷など豊かな自然環境を保全するとともに、これらの恵みを楽しみつつ、生活の利便性確保、連携強化及び居住環境の整備などを図り、交流の芽生えとなる地域づくりを進めます。

▼方針図



●鹿本地域のまちづくり

▼テーマ

自然と生活が融合し、賑わいと活力を支える地域“かもと”

▼目標

①生き生きと活動する地域づくり

道の駅水辺プラザかもとを核として、豊かな自然や歴史文化を生かした交流促進を図ることにより、市内外の人々の賑わいと活力を支える地域づくりを進めます。

②暮らしの利便性とゆとりある地域づくり

自然環境に配慮した計画的な土地利用や居住環境の整備、アクセスの充実などにより、人口密度や都市機能の確保を図り、賑わいと活力を支える地域づくりを進めます。

▼方針図



●鹿央地域のまちづくり

▼テーマ

自然と歴史・文化に触れ、健やかに活動する地域“かおう”

▼目標

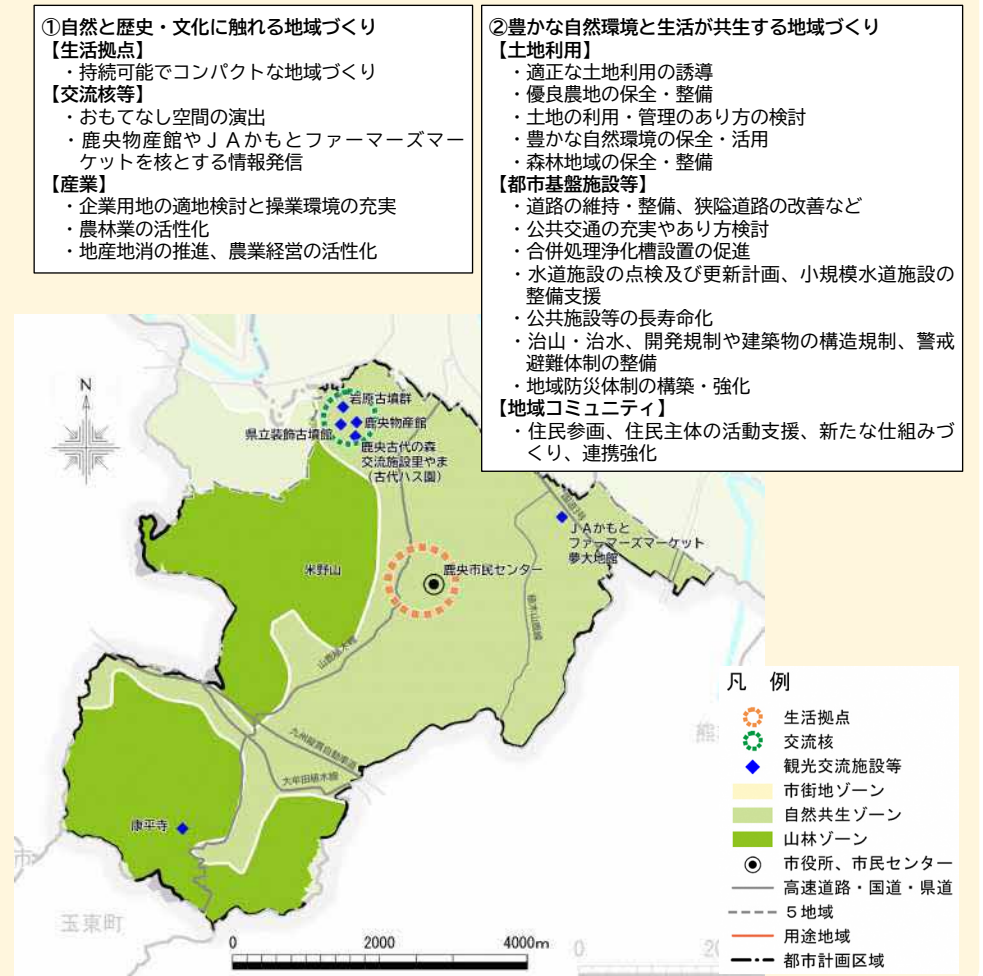
①自然と歴史・文化に触れる地域づくり

肥後古代の森鹿央地区の古墳群や古代ハス園、鹿央物産館などを生かして、自然と歴史・文化が融合した体験交流を促進し、市内外の人々が健やかに活動する地域づくりを進めます。

②豊かな自然環境と生活が共生する地域づくり

農地や山林など豊かな自然環境を保全するとともに、これらの恵みを楽しみつつ、生活の利便性確保、連携強化及び居住環境の整備などを図り、健やかに活動する地域づくりを進めます。

▼方針図



■実現化方策

●実現化方策について

○役割分担

▼基本的な考え方

人口減少社会、少子・高齢化の進展、地方分権の進展など社会経済情勢が変化中、複雑・多様化するニーズを的確に捉えたまちづくりを進めていくためには、自主・自立の精神のもと、市民や事業者等がまちづくりに主体的に関わるのが重要です。こうしたことから、行政がその仕組みや体制を整え、協働のまちづくりを推進していきます。なお、様々な主体が関わるまちづくりにおいては、目指すべき方向性を共有する必要があることから、都市計画マスタープランがその指針となります。

○推進方策

▼計画の進行管理

右図のPDCAサイクルに基づき、本計画で位置づけた施策等を着実に実施するとともに、その成果を点検・評価し、改善を図り、必要に応じて計画の見直しを実施します。また、各段階で積極的な市民・事業者等のまちづくりへの関与も求められます。

